

隠れ家みたいな雰囲気がある屋根裏部屋。「自分だけの空間を」「収納用」と人気が広がり始めた。断熱材をうまく使えば、暑さも気にならないし、規制緩和で広いスペースがとれるようになったのも魅力だ。実際に作る際のポイントを紹介しよう。

東京都大田区の閑静な住宅街に住む会社員、鈴木博さん(42)は休みになるといそいそと階段のリビングにあるせう階段を上る。とそこには四畳ほどの山小屋風の書斎が。「本を取り出す際に時々頭をぶつける」が、静かにくつろげる秘密の空間だ。クッションに寝転がって本を読んだり、時には夫婦で花火を眺めたり……。

家を建てたのは三年前だ。鈴木さんの敷地は約七十六平方メートル。この地区で認められているのは、二階部分の床面積(建ぺい率)が敷地の60%で、延べ



は受注数全体の40%未満だったが、昨年は10%近くに増えたという。大和ハウス工業も昨年末、屋根裏利用の軽鉄骨の三階建て住宅「エトリエバンセシリーズ」三平方メートル当たり四十三万円(約)から発売。三井ホームは床面積が六畳程度なら総工費三十万~四十万円から施工する。

二〇〇〇年の建築基準法改正で、屋根裏のスペースを広く確保できるようになったことも追い風になった。二階部分の八分の一もたった屋根裏の床面積が、二分の一に広がったのだ。

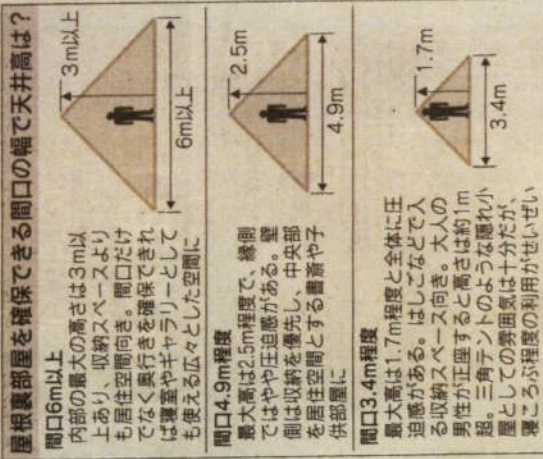
改正建築基準法とは室内の平

収納空間に

週末の隠れ家

楽住快居

くくなる気が



均の高さが一・四以下で、収納目的で利用するなら容積率に算入しなくてもいいが、窓を付け、居住用にするなら三階建てとして自治体に建築確認を申請しなければならない。屋根裏を新増築するときには、家の高さ制限など条例規制にも留意する必要がある。

建築時に気をつけなければならないのが屋根裏の間口幅だ。最高部の高さは室内面積ではなく、間口幅で決まる(表参照)。居住用なら最低五尺近く必要で、この場合、最大の高さは約一・五尺。十分な高さが、天井が傾斜しており、直立して歩けるスペースは限られる。

暑さ対策も重要だ。直射日光を浴びる夏場はどこに温度が上がるため、旭化成ホームズは通常の二倍、二百リットの断熱材を使う。三井ホームは屋根下地材として二重構造の構造断熱パネルを利用している。通風を確保できる窓も効果的だ。鈴木さんはクーラーをつけていないが、二つの窓から自然風が入り、夏でもさわやかだという。

屋根裏部屋はリフォームでも作れる。年間百件の屋根裏を施工するポイントホーム(東京・世田谷)によると、敷地面積が百平方メートル前後の住宅の依頼が多



いた時に書いた、フラスコや手紙を書くときにも使います。とても愛用しています。書いているときは自分と向き合わなければなりません。とても落ち込むこともありますが、書き終えると自分が空っぽになります。書くことで人生の一つ一つの出来事に心を届けるようになり、生き方が大人気になっていくような気がします。これからの時

好きな読書や音楽を楽しむ自分だけの空間

名前入り原稿用紙

心強い秋風に誘われ機二転、部屋を模様替えしよう。気分にもなる季節、インテリジェントな部屋の空間がグリーンを